

東京電力・東西連係ガス導管新設工事

発注者 : 東京電力株式会社
施設所在地 : 神奈川県川崎市扇島～千葉県富津市新富
調査見学期間 : 平成 18 年 2 月 2 日

工事概要

当該工事は、東京電力㈱により東京湾を横断する総延長 20km のパイプラインを建設するプロジェクトです。京浜側と京葉側の LNG 基地を連係し、東京湾内・各火力発電所への LNG 供給において、弾力的かつ効率的な運用を図る目的で、平成 15 年 4 月に本格的に着工、平成 21 年 3 月までの完成を目指しているものです。

平成 17 年 9 月に東京湾横断部の地中接合が終了し、視察した時は、既に横断部全区間が貫通しており、数々の記録を樹立しています。

まず、東京湾横断部の工事概要を紹介します。

- 1) 使用工法 : 泥水式シールド工法
- 2) 横断部延長 : 18km (扇島側 9.03km、富津側 9.03km)
- 3) セグメント内径 : 3.00m
- 4) 富津側立坑 : W7.0m×L38.0m×H15.7m (内寸)
- 5) 扇島側立坑 : φ14.0m×H40.2m (内寸)
- 6) ガス導管仕様 : 700A、1 条

この工事は、日本における土木技術の粋が集められています。とりわけシールド工事としては、超長距離であることや高圧水圧下での地中接合など、世界では事例のない画期的なプロジェクトでもあります。工事概要やこのプロジェクトの苦心を拝聴しても、さりげなく披瀝される工夫や施工の管理は、耳新しく斬新なものです。その技術を展開駆使している姿勢は、まさに逞しく頼もしいものでした。日本のシールド技術が世界最先端を走るもので、既に、いかなる地層も克服できる土木技術と発展していることが実感できるものでした。



富津側 坑口風景坑内状況



坑内状況

(参考) 東京電力ホームページ・プレスリリース

<http://www.tepco.co.jp/cc/press/05102001-j.html>